

「宮崎県口蹄疫被害」克服に向けて

岡山県立瀬戸南高等学校

平成22年4月20日、宮崎県児湯郡都農町で口蹄疫が疑われる牛が発見された。口蹄疫は、家畜の伝染病の一つで、日本では家畜伝染病予防法において法定伝染病に指定されている。これには高い伝染性があり、経済的被害は甚大なものとなるため、畜産関係者から非常に恐れられている病気である。

今回は、1例目の発見から7月までに豚、牛あわせて29万頭が殺処分された。被害金額は、1000億円以上となった。

罹患者が発生した牧場は、家畜を全頭殺処分し、発生農場を中心とする半径10～20km以内の区域は、発生から21日間家畜の搬出制限がなされた。本校でも防疫対策として、牛舎周辺の消石灰散布と踏み込み槽を設置し、牛舎への出入りを制限した。

4月20日以降、次々と口蹄疫感染家畜の報告がされる中、本校の同じ畜産を学ぶ生徒から「宮崎県内の口蹄疫に関わった農家の方々に元気を取り戻していただき、終息宣言後に農業を再開していただくために、何か自分達にできることはないか」と声が上がった。多くの生徒がそれに賛同し、農業クラブ役員や顧問の先生方を中心に義援金を集め、署名活動を行い、千羽鶴を送って、宮崎県の畜産関係者を励まそうという事になった。



(宮崎県口蹄疫の義援金・署名呼びかけ)

折り鶴については、折り方説明書や折り紙を農業クラブが準備し、各クラスで回収袋に入れてもらう

こととした。各クラスで160個以上とノルマを決め目標を達成するよう呼びかけた。また、先生方にも折っていただくため、職員室、農場職員室、事務室に準備し、職員へも働きかけた。6月21日から7月9日までに折り、回収後農業クラブ役員や家庭クラブ役員で糸を通し完成させた。また、義援金については、農業クラブ役員が生徒昇降口や生徒ホールおよび、各クラスで生徒と職員に呼びかけた。

また、保護者に活動の内容を知らせ理解を得るために保護者宛文書を送付したり、集まった義援金の金額や千羽鶴の成果を、農ク新聞を通じて生徒や保護者に周知した。

その結果多くの生徒や職員、保護者から義援金と折り鶴が集まった。集まった義援金は「宮崎県口蹄疫被害義援金」の窓口へ振り込んだ。

更に、活動は本校卒業生にまで広がった。酪農学園大学に進学している平田真基君、山根裕貴君を中心としたグループが学園内で署名活動と義援金活動を始めたのを皮切りに、他の様々なグループが宮崎県を励ます活動を行い、その内容は同大学のHPでも紹介された。

発生から終息宣言が出された8月27日までの4ヶ月間、宮崎県内では

偶蹄目に関する畜産業が休止したが、前の東国原知事の陣頭指揮により復興対策がとられ、再出発が果たされている。

本校の生徒や卒業生の勇気ある行動に敬意を表するとともに、今後も引き続き、一刻も早い宮崎県の復興を共に祈りたいと考えている。



(本校卒業生平田真基君)



(義援金活動成果報告 本校卒業生)